

第3回鳥取県ふうせんバレーボール大会・パラレルルール 競技上・審判上の確認事項

- ◎コート：バドミントンの外側ライン。サービスライン＝アタックライン
- ◎メンバー構成：ハンディープレイヤー＝3～5名。
アドバンテージプレイヤー＝1～3名 合計6名とする。
- ◎接触回数：全員（6名）が触れ、10打以内に相手コートに返球する。
- ◎ボールのアウト・イン：接地点がライン上であればインとする。
ネット上を通過して返球されればインとする。
コート外の床、人、物にボールがふれた場合はアウトとする。
- ◎ゲーム進行：コートキャプテンのジャンケンでサーブ権を決めておく。
両チーム主審側からゼッケン順でサービスラインに沿って整列する。
原則として1・3・5番をハンディープレイヤーとする。
主審のホイッスルで挨拶し、ゲームに入る。
(ゲームの進行は主審が行う、プレイヤー等の判断でプレーを止めない。)
- ◎サーブ：2本以内にネットに触れずに相手コートに打ち込む。
ハンディープレイヤーは、サーブトス・サーブ後1打のアシストを受けることが出来る。車椅子使用者は、サービスラインより前でサーブを打ってもよい。
得点に関係なくチーム交互に、ゼッケン順にサーブを打つ。
- ◎レシーブ・パス・返球：
全員が接触し、10回以内であれば、同一競技者は2回までプレーすることが出来る。(審判は全員が触れたかを確認する。)
 - ・同一競技者が連続して触れることは出来ない。
 - ・一連の動作の中でのダブルタッチは、主審の判断によりOKとする。
 - ・ラリー中に車椅子等にボールが触れた場合はカウントしない。
- ◎アタック：ゼッケン番号1・3・5の選手しかできず、立位者は原則としてアタックライン後方から打つ。ジャンプしてのアタックできない。
- ◎反則について
 - ・全員が触れる前に相手コートに返した場合・・・ナットオール
 - ・10打以内に相手コートに返球できない場合・・・オーバータイム
 - ・一人の競技者が連続してボールに触れた場合・・・ドリブル
 - ・ボールを持ったり、運ぶようなパスをした場合・・・ホールディング
 - ・サーブやアタックをジャンプして行った場合・・・ジャンプアタック
 - ・ボールを操作するためにネットに触れた場合・・・タッチネット
 - ・相手コート上でボールに触れた場合・・・オーバーネット
 - ・サーバーやアタッカーがサービスライン＝アタックラインを踏んだり、動作後でも踏み越したりしてプレーをした場合・・・オーバーライン
- ◎ゲーム終了：10分の試合時間又は15得点先取のラリーポイント制。
サービスラインに整列し、向かい合う選手と握手をしゲーム終了。

補足説明

- *複数競技者が同時に触れた場合・・・それぞれのカウントとするが、次のボールは誰が触れても良い。
- *ドリブル・・・2度打ち、明らかに両手ばらばら、身体に当たってから打つ。
- *フォールディング・・・手に乗せ運ぶ、つかむ、ネット・身体で挟み込む。
- *アタック・・・相手コートに打ち込む行為を全てアタック。 ●アタックの反則・・・アドバンテージプレイヤーがネットより高い位置から、ネット通過時水平より鋭角にアタックした場合。